IFPW北京総会に参加して

（一社）日本医薬品卸売業連合会　会長　鈴木　賢

第20回IFPW（国際医薬品卸連盟）総会が10月20日～21日の２日間、中国・北京市において開催されました。日本からは、同伴者も含めまして41名の参加をいただきました。開催国である中国をはじめ、世界19か国から300名以上の方々が参加され、２日間にわたり熱心な討論が行われました。

今回の総会は、メインテーマを「Wholesalers：Partners in the Center Healthcare」（卸：医療の中心におけるパートナー）、サブテーマを「Delivering Health Globally Through Collaboration」（連携を通じて世界に健康を届ける）として、世界の製薬企業、医薬品卸企業、小売企業の幹部が、著しく変化する医薬品市場や、それに伴う自社の経営戦略を紹介しました。

総会冒頭にIMSヘルスのバイスプレジデントから、2014年の世界医薬品市場が初めて１兆ドルを超え、2018年には1.3兆ドルに上るとの予想や、ジェネリックについて医薬品卸が過当競争に陥るとビッグビジネスが失われると警鐘を鳴らしました。

また、今回の総会の特徴として、拡大が続く中国市場についての講演や参加者からの質問が数多くだされ、中国の医薬品市場や流通に対する世界中の関心の高さを示す総会であったように感じました。

ビジネスプログラムにおいては、日本を代表して渡辺紳二郎さん（㈱アトル社長）と福神雄介さん（アルフレッサ㈱執行役員経営企画部長）のお二人が、医療における日本卸の貢献の高さ、医薬品の流通改革などについて、大変に流暢な英語での講演を行い会場から高い評価をいただきました。

総会の最後は、世界各国の医薬品卸企業の代表者であるIFPW理事の方々による、「流通の未来と卸売業界のグローバル化」についてのパネルディスカッションが行われました。パネラーの１人として、一昨年IFPW全州理事に就任されました中北馨介さん（中北薬品㈱社長）に参加いただきました。中北さんは、「地域に密着した卸を目指す」と発言され、「医薬品の販売にはメーカーとの共闘が欠かせない」とご自分の思いを熱く語っておられました。

IFPW代表理事であるマーク・パリッシュさんから、「総会に先立ち行われた理事会で、次回2016年の総会は英国・ロンドンで開催することが承認された」との報告がありました。

また、総会期間中に、中国医薬商業協会（CAPC）、韓国医薬流通協会（KPDA）の代表者と会談を行い、来年に開催を予定している「第２回アジア・パシフィック医薬品流通フォーラム」についての検討を行い、2015年10月16日（金）に韓国・仁川において開催することなどを確認しました。

最後に、新たにIFPWアジア代表理事に就任したご報告と、多くの会員の皆様に参加していただき、今大会が成功裏に終わったことに心より感謝を申し上げ、次回のロンドン総会のご参加をお願い申し上げる次第であります。